

令和5年10月12日

都内私立中学高等学校
校長
国語科教諭殿
関係教職員

一般財団法人東京私立中学高等学校協会
会長 近藤 彰郎
東京私学教育研究所長 平方 邦行
文系教科研究会委員長 畑 澤 正一
(共催：公益財団法人東京都私学財団)

文系教科研究会（国語）「講演会」のご案内

主体的・協働的・創造的な言語活動のための 「フィールドワーク」の活用

清秋の候、先生方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

中央教育審議会答申（平成28年12月）では、高等学校国語科の課題として「教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり、授業改善に取り組む必要がある」と示されています。また、中学高校の総合学習の時間などで、中高生が学校の外へ出て、活動や取材等をする機会も増えてきています。

そこで今回は、主体的・協働的・創造的な言語活動のための「フィールドワーク」の活用、というテーマを考えてみました。

つきましては、長年にわたり「フィールドワーク」に取り組まれている、中央大学文学部教授の新原道信先生を講師にお招きし、「フィールドワーク」（あるき・みて・きいて・しらべ・ふりかえり・かんがえ・ともにかく）とはどのような活動なのか、それをどのように言語活動に活用するか、をテーマにご講演いただきます。

本研修会へのご参加を通じ、先生方の授業改善の一助となれば幸甚の至りです。校務ご多用とは存じますが、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時 令和5年11月30日（木）18：00～20：00（受付17：30～）
2. 会 場 アルカディア市ヶ谷（私学会館）会議室（千代田区九段北4-2-25）
※ 裏面案内図をご参照ください。
3. 内 容 主体的・協働的・創造的な言語活動のための「フィールドワーク」の活用
4. 講 師 新原 道信 先生 中央大学文学部 教授

【講師プロフィール】

伊豆半島に生まれ育ち、名古屋大学で哲学、東京大学で社会思想、一橋大学で社会学、イタリア・サッサリ大学でフィールドワークを学ぶ。イタリアより帰国後、千葉大学助手、横浜市立大学助教授を経て2003年より中央大学文学部教授、2017年より文学研究科委員長、2021年より文学部長。地域社会学会、都市社会学会などで活動し、日本、イタリア、ブラジルなどでフィールドワークを行う。

「旅」「フィールドワーク」について、主に日本語とイタリア語で書き、『ホモ・モーペンス——旅する社会学』（窓社）、『境界領域への旅』（大月書店）、『旅をして、出会い、ともに考える』『“境界領域”のフィールドワーク』『うごきの場に居合わせる』『“臨場・臨床の智”の工房』（中央大学出版部）、『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』（ミネルヴァ書房）などの著書、その他共著、編著、論文がある。



5. 定員 50名（申し込み順 ⇒定員になり次第締め切ります）
6. 参加費 無料（当協会会員各校の拠出金と（公財）東京都私学財団からの補助金で運営しております）
7. 申込方法 11月21日（火）までに東京私学教育研究所HPよりお申込みください。

URL <https://k.tokyoshigaku.com>



8. 委員名（支部・学校名）




委員長 畑澤 正一（⑦大森学園）
 委員 鈴木 千穂（①共立女子） 宇野 幸弘（③晃華学園）
 山田寛治郎（⑦香蘭女学校） 駒ヶ嶺泰暁（⑨中央大学杉並）
 沖 奈保子（⑫ドルトン東京学園）

東京私学教育研究所 文系教科研究会（国語）
 担当：松田・岡沢
 TEL 03-3263-0544

【案内図】



■交通のご案内

-  地下鉄 有楽町線・南北線
市ヶ谷駅（1またはA1）出口
-  地下鉄 新宿線
市ヶ谷駅（A4またはA1）出口
-  JR中央線（各駅停車）市ヶ谷駅
上記改札・出口から徒歩約2分

台風の接近、豪雨などによる天候の悪化や各種災害、新型コロナウイルス感染症への政府方針変更などにより、実施方法（オンライン研修を含む）・プログラムの変更や中止（延期）となる場合があります。その際にはweb申込時にご入力いただいたメールアドレスへ迅速にご案内させていただきます。